

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果・分析について

令和7年9月 下呂市教育委員会

令和7年4月に小学校6年生と中学校3年生を対象に全国学力・学習状況調査が行われました。この調査の目的は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、今後の教育活動に役立てていくことです。

下呂市教育委員会では、調査結果から、下呂市の子どもたちのよさや課題を明確にし、子どもたちに確かな学力を育むことを目指します。

なお、この調査により測定できるのは、学力のうち、特定の一部分であること、学校における教育活動の側面であることなどをご理解ください。

1 教科に関する調査（教科、領域別）

【小学校】6年生

教科	全体の傾向	傾向の詳細
国語	全国平均正答率を上回っています。「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」とともに、その定着度が高いと言えます。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」についての正答率が高いです。特に「書くこと」について、図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる力が大変優れています。
算数	全国平均正答率を大きく上回っています。特に「知識及び技能」を問う問題における正答率が高く、算数の各領域における基本的な知識等が身につけていることが窺えます。	「数と計算」、「データの活用」の領域で特に正答率が高く、計算技能やデータを読み取る力に伸びがあります。今後は、身につけた知識や技能を活用し、身の回りにある問題を算数の視点から解決する力を高められるとよいです。
理科	全国平均正答率を上回っています。特に、「思考力・判断力・表現力」を問う問題における正答率が高く、学習した内容を活用して問題を解く力が高いことが窺えます。	「地球」を柱とする領域において、正しい実験方法を発想したり、結果を基に結論を導いた理由を表現したり、他の条件での結果を予想したりする問題で正答率が高く、理科の本質的な学習の進め方が身につけていると言えます。

【中学校】3年生

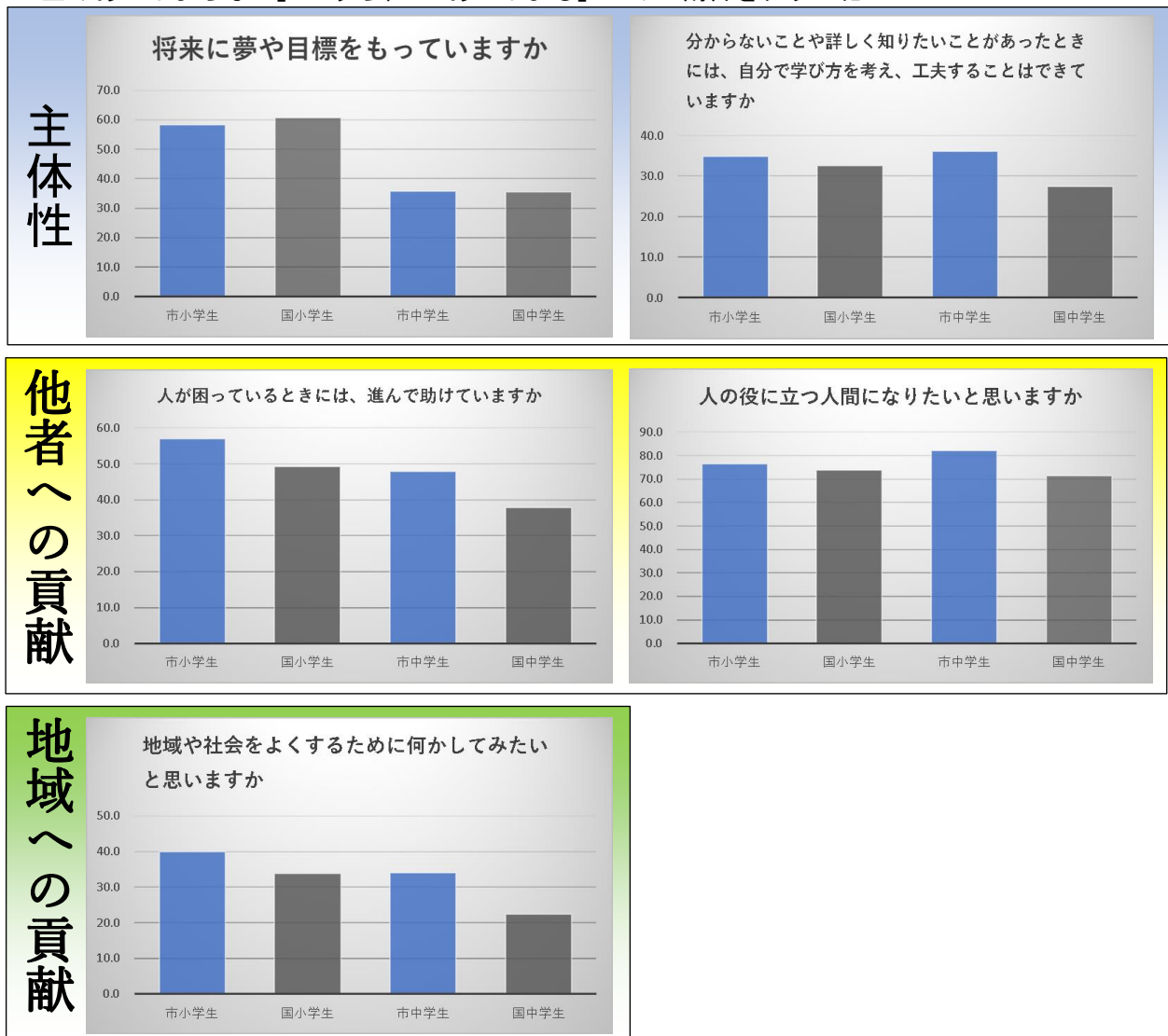
教科	全体の傾向	傾向の詳細
国語	全国平均正答率を大きく上回っています。「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」とともに定着度が高く、特に「読むこと」に関する問題の正答率が高くなっています。	「読むこと」の領域において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の人柄を捉える力が大変高いです。今後は、自分の考えや理由を表現することについて、他者に伝わるよう根拠を明確にして記述できる力を高められるとよいです。
▽	全国平均正答率を上回っています。各学習領域において、基本的な学習内容が定着していることが窺えます。また、「知識及び技能」を問う問題について、高い正答率となっています。	「データの活用」の領域では、データを客観的に見るための代表値を用いて、資料の傾向を正しく捉えることができています。今後は、根拠を明確にして考えたり、資料等を用いて分かりやすく考えを伝える表現力を高めたりすることができるとよいです。
理科	異なる問題から構成される検査の結果を、同じものさし（尺度）で比較した IRT スコアの平均値が全国の平均値より大幅に高く、学習内容の理解度が大変優れていると言えます。	各学習領域の知識等が概念として定着しており、それを用いて日常にある事象を理科的に捉えることができます。今後は、科学的に探究する学習場面などで、結果を考察し自分の言葉で表現する力をさらに高められるとよいです。

2 教科に関する調査（問題別）

成果のみられた問題の共通点	課題のみられた共通点
・ 小学校・中学校ともに無回答率が低く、粘り強く問題に取り組もうとしていることが窺えます。 ・ 国語、算数（数学）、理科ともに、その教科の中にいくつかある学習領域を、バランスよく理解することができています。	・ 自分の考えを、データや資料を活用し根拠を明確にして記述したり、相手に伝わりやすいように工夫して表現したりすることに改善の余地があります。

3 質問紙からみる下呂市の小中学生の傾向

※質問紙の選択肢「1 あてはまる」「2 どちらかといえば、あてはまる」「3 あてはまらない」「4 全くあてはまらない」のうち、「1 あてはまる」のみの割合をグラフ化



上記の結果から、下呂市の小中学生は、「分らないことを分かるようになりたい。」、「人の役に立ちたい。」、「地域や社会のためにできることをやりたい。」という前向きな願いをもって、熱心に学び続けようとしていることが分かります。特に、自分のことだけでなく、他者や地域・社会に目を向けている点が素晴らしいです。

下呂市では、今後も学校、家庭、地域が連携し、子どもたちがふるさとの風を感じ、将来の夢や目標をもってたくましく生き抜いていけるような教育をサポートしていきます。